

令和7年度 小平市立花小金井小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童(かしこく つよく やさしい子)を育成する。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 未来への夢や希望が抱け、友達とかかわり学ぶ楽しさがいっぱい为学校
- 【目指す児童・生徒像】 主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童 健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力する児童 自分も友達も大切に作る児童
- 【目指す教員像】 教育公務員としての自覚と責任をもち服務に厳正な教員 こどものよさや可能性を語れる教員 授業改善に向け研鑽に努める教員 保護者や地域から信頼される教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 【成果】いじめ対策や不登校対応について学校いじめ対策委員会や生活指導夕会等で児童の情報を共有し、組織的に未然防止・早期対応ができた。授業では、教科の特性に合ったICT活用ができた。
- 【課題】児童の生活の様子から情報リテラシー教育と健康・安全指導の充実を図る必要がある。業務の軽減や効率化を進め、教職員のライフワークバランスを大切にする職場環境をつくる必要がある。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 指標に基づく成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策 |
|-------------|---|-------|------|---|-------|------|---|---|
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | 朝のモジュール学習や補習、漢字・計算ドリルや東京ベーシックドリルの取組 | 4 | 4 | モジュール学習の時間に、漢字の補足的な学習をすることができてよかった。漢字が定着していないと感じる。今後、モジュール学習の時間は、言語に関する単元を多く設定していく。 | 4 | 4 | 学習者用端末を有効活用して学習できていると思う。使用ルールを守らず端末を使用している子もいると聞くので、そこが気になる。 ・学校として一丸となって取り組んでいると思う。 ・勉強は日々の繰り返しが必要なもの多いので学習者用端末を使い、自己学習ツールを用いるなど先生の採点等の負担軽減を目指してほしい。 | モジュール学習で漢字や国語の小単元を実施したことで、通常の授業でも単元を効果的に実施することができた。次年度は、モジュール学習を週3回から2回にして実施を徹底するとともに、学級の朝の時間の確保も行う。 |
| | 授業におけるICT機器の効果的な活用と情報リテラシー教育の充実 | 4 | 4 | 学習者用端末やデジタル教科書を活用した授業を行うことができた。2学期は、ロイロノートの使い方についてOJT研修を実施し、授業でロイロノートを効果的に活用できるようにする。 | 4 | 4 | | ICT担当教員が、学習者用端末の効果的な活用について研修や掲示板等を活用して情報提供することができた。児童の9割が学習者用端末を使用した授業を分かりやすいと感じている。 |
| 健全育成(いじめ防止) | 毎月のいじめ調査、対策委員会の実施 | 2 | 2 | 生活指導夕会で、児童の情報共有が行われている。今後、学校全体で共有すべき児童の情報は、臨時夕会などで伝える。また、学年・専科主任から関わる人に伝えるなどを行う。さらに、講師の先生へは、学年担当教員が責任をもって伝える。 | 4 | 3 | こどもの人間関係で不安なことがあったとき、担任がじっくり話を聞いてすぐに対応してくれた。そのため、いじめ等を未然に防ぐことができていたと思う。 いじめへの丁寧な対応ができていたと思う。 大人の求める答えを引き出すのではなく、こどもの気持ちに寄り添いながら根本的に対応できればと思う。 ・問題行動も起こる中、先生方はいつも頑張っているので保護者からの信頼も厚いのだと思う。 | 毎月や臨時的な学校いじめ対策委員会や毎週の生活指導夕会で児童の情報を共有でき、迅速な対応につながった。次年度も対応記録や情報共有を図り、未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。 |
| | 学級会での話し合い活動、なかよし班、委員会、クラブ活動など異学年交流や体験活動の充実 | 4 | 4 | 「学級会の進め方」をテーマにOJT研修を行い、指導に生かすことができた。1学期は行事が多く、なかよし班の時間を設定することが難しかった。2学期は、なかよし班の時間を増やす工夫をする。 | 4 | 4 | | 校内研究やOJT研修で学級会での話し合い活動の充実に取り組み、児童が主体的に活動する力が付いてきている。次年度も特別活動を軸とした教育活動の中で児童が活躍する機会を設け、児童の自己肯定感を高められるよう取り組んでいく。 |
| 健康づくり | 外遊びの奨励や「持久走タイム」「なわとび旬間」等の体力向上の取組の充実 | 4 | 2 | 休み時間などの、外遊びの励行をすることができた。休み時間に教室で過ごしたい児童に対して、外で遊ぶように声掛けを徹底する。 | 4 | 4 | ・外遊びをしたくても校庭の広さの問題で毎日遊ぶことができないのが残念である。先生方は積極的に子どもたちに声をかけていると思う。 ・校庭が狭く、苦勞していると思う。 ・交通安全に関しては、家庭での指導も大事だと感じる。 ・健康は日々の積み重ねなので、これからも食と運動の大事さを伝えていってほしい。 | 外遊びの奨励や持久走、長縄等を実施し、「体を動かして、運動するのが好きだ。」と肯定的に回答した児童は87.9%であった。休み時間の校庭利用については安全に利用できるように工夫する必要がある。 |
| | 各学級での健康・安全指導、児童・保護者への啓発 | 4 | 3 | 安全指導日に生活安全や交通安全などについて指導できた。2学期以降、養護教諭による保健指導や栄養士と連携した食育指導を行い、更なる充実を図る。 | 4 | 3 | | 養護教諭による保健指導や栄養士と連携した食育指導を行い、児童の健康・安全・食育についての理解を深めることができた。保健室利用者も昨年より100人程度減少した。 |
| 保護者・地域との連携 | 保護者の会、学校経営協議会の健全育成、学校支援ボランティアの活用 | 2 | 1 | 読書の広場、学習支援ボランティアなど保護者の方に支えられて充実した活動を行うことができた。今後も地域教育コーディネーターと連携し、活動を活性化していく。 | 4 | 3 | ・保護者の会に関しては、先生方に協力いただき、円滑に運営できたと思う。ボランティアに関しては、共働きの家庭が増えているので、必要人数を集めるのが難しくなっていると感じる。 ・たくさんボランティアさんが活動する場があるのもよいことである。今後もより多くの場で活躍してほしいが、責任や負担が大きすぎないものであってほしい。 ・地域との連携はもってあってよいと思う。地域と児童の関係は昔ながらのものだとよい。 | 地域教育コーディネーターを中心に年間200人を超えるボランティアの方に協力していただき、学校行事等を円滑に実施することができた。参加者のご意見を伺って改善しながら、今後も保護者や地域と協力して教育活動を充実させていく。 |
| | 各学年における保護者・地域の方と連携した取組の年1回以上の実施 | 2 | 4 | 1学期は行事が多く、地域、外部の専門家の方を招くことが難しかった。2学期は、外部の方から学ぶ体験を企画するとともに、外部人材シートを整備し、引き継ぎの体制を整理する。 | 4 | 4 | | 全学年で1回以上、地域や外部の専門家の方をゲストティーチャーとして招いて教育活動を実施することができた。次年度以降も充実した体験となるよう計画を進め、活動後の発信も行う。 |
| 業務改善・働き方改革 | 個々の目標設定、分掌マニュアルの作成、人材の活用 | 4 | 4 | 分掌マニュアルがあることで、業務内容が明確になり、取り組みやすかった。会議の縮小化・精選については、引き続き検討していく。 | 4 | 4 | ・このまま仕事の効率化に努め、心に余裕をもって児童と関わる先生が増えてほしい。 ・日々の活動より、報告書等の作成量が増えているのではないかと感じる。時短しても中身が見えづらくなる。プラスαの教育活動に時間が割けるように、業務内容をしっかり精選していかないといけないと思う。 | 教職員は、会議内容の精選やペーパーレス化への意識が高まっており、定着している。今後も、会議の精選(学期中の職員会議ゼロ)や校務支援システムの掲示板の活用による職員夕会の短縮、学校だより等のWEB配信など、更なる効率化を図っていく。 |
| | SSS等支援スタッフの活用、出退勤管理システムの活用、定時退庁日・学校一斉閉庁日の実施 | 1 | 1 | 月の時間外勤務が45時間以上になる教職員は38.2%であった。今後も引き続き、様々な支援を活用して時間外勤務の減少に努める。 | 4 | 4 | | 月の時間外勤務が45時間以上になる教職員は、21.9%であり、年間を通して減少している。今後も教職員一人一人がワークライフバランスを意識して業務ができるよう管理職の声掛けや環境整備等を推進していく。 |